平成24年度第1回京都市図書館協議会摘録

○　日　　時　　平成24年11月15日（木）
　　10時30分～12時
○　場　　所　　京都市生涯学習総合センター　3階　第3研修室A
○　出席委員　　[10名中9名出席]
　　大角　安史　委員
　　岡田　優子　委員
　　日下部　潔　委員
　　五島　邦治　委員
　　髙越　恵美子 委員
　　永田　信一　委員
　　正木　隆之　委員
　　山内　康敬　委員
　　山本　早苗　委員（五十音順）
○　傍 聴 者　　なし

1　開会

（1）新図書館協議会委員紹介
（2）中央図書館長の挨拶

2　報告事項

事務局から資料に基づき，以下の項目について報告した。

（1）　平成２３年度京都市図書館利用状況等について

・貸出冊数は，１５年度に大幅に増加。これは１４年１０月「みやこライブラリーネット」という各館のデータの共有化を図り，それを充実させた結果，インターネットを利用して全館の図書の所蔵状況を検索できるようになったことによるもの。

・１８年１月からインターネットによる予約サービスを開始。

・１９年度には携帯電話からも予約ができるようになった。

・こういった利便性を図ったことから，予約も順調に伸び，それに伴い，図書館間で本を運ぶ運搬車を増加させて貸出冊数も大きく延びた。

・１９年度から２０年度にかけては，とくに入館者数が大きく伸びた。これは２０年６月に，新たなスタイルの図書館，電子メディア，レファレンスサービスなどいろいろなサービスを提供できる右京中央図書館が開館したことが影響していると分析している。

・このように利便性の向上に伴い，利用は順調に伸びてきているが，ここ２年につい

ては横ばいの状況になっている。２４年度も途中だが，同様の傾向になっている。

・今年度はちょうど図書館システムの更新にあたっており，これに合わせて利便性の向上も図りながら利用増につなげていけたらと考えている。

・利用そのものの増加というより，母数である登録者数の増を考えたい。

・京都市図書館の登録者数は，２３年度末で４３万人。京都市の人口の約３割にあたり，若干であるが増えてきている。ただ，貸出冊数の大きな伸びに比べると，小さいので，その辺のところを協議願いたい。

（２） 京都市図書館の特徴ある取組について

① 学校との連携について

・ここ数年，学校での読書活動の充実を京都市全体で課題としており，図書館側から学校に提供できるサービスというものを，アナウンスしてきている。

・団体貸出により，学級文庫や朝読書用に，また，調べ学習用に図書を提供。

・読み聞かせやブックトーク，出前貸出など司書を学校に派遣し，直接子ども達に読書の素晴らしさを訴える。

・学校図書館の活用に向けて教職員や図書のボランティアの方の研修の講師として司書を派遣し，図書の配架方法・読み聞かせや修理方法等専門的な分野で研修に協力している。

・今年度，学校図書館の活動を充実させるため，教育委員会でも学校図書館支援員の配置を大幅に増やしている。こうしたことから学校からの要請というのも少しずつ増えている。特に中学校との連携について，まだ事例としては少ないが，徐々に増している。

・図書館としては，こういった流れを中高生の図書館利用増につなげていけたらと考えている。

② 新たな協力貸出について

・現在，団体貸出という制度があるが，地域の方がより活用できるように，現在の対象をより拡大して柔軟に適用していくべきではないかと考えている。新たに協力貸出制度を作り，継続的な読書活動を行う団体だけではなく，図書の展示を行いたいとか，読み聞かせを行いたいとか，一過性の読書活動を行う団体等にも図書館としてお応えできるよう制度化について考えている。

③ 地域との連携について

・ここ数年，地域図書館はその地域の方と連携して，その地域に根差した取組を行っている。

<東山図書館の取組>

小学校の写真展。東山図書館の副館長は，もともとは学校歴史博物館にオープン時からずっとかかわってきた職員で，東山図書館に赴任した際に，なにか地域と連携した，地域の人に親しんでもらえる取組はないか，今まで自分が経験したことを活かせるこ

とはないか，そういう思いで色々なことを考えたときに生まれた。
・東山図書館では，五つの小学校と二つの中学校が統合されて，東山開晴館という大きな学校になったが，閉校になった小学校への思い入れがあるということで各小学校を回って，資料を集め順次東山図書館で各校の昔の写真の展示会をした。
・これは非常に好評を得てわざわざ遠くから自分の通っていた学校が紹介されているということで足を運ばれた方が多くおられた。自分たちの学校はいつやってもらえるのかと問い合わせもあった。
・また「図書館から始める文学まち歩き」というイベントを実施した。東山図書館のそばの京都女子大学の司書課程を担当している先生が，なにか自分たち地域と図書館が連携して取組めないかという思いがあり，東山区の区役所が主催している地域活性化事業「ひがしやままちづくりカフェ」に相談されたところ，東山図書館が東山界隈の文学に関係する本を集め冊子をつくっているが，それに関係した取組をすると面白いのではないかという提案があり，実現した企画である。小説の中に出てくる場所のコースを設定し，皆で文学と親しみながら地域をめぐるという面白い企画となった。参加者は２８名。「まち歩きマップ」という地図を配って街歩きをしたという。「非常に穴場的なところを探れて面白かった。」「同じ小説を読んでいるという共通点があったので，初めてお会いしたにもかかわらず親しんでお話できた」という感想が寄せられている。
・「戦争展」。京都市の図書館では毎年８月に，各館が平和関連の資料を展示しているが，その中の一つの取組として「馬町爆撃を語り継ぐ会」から爆撃に関する写真などをお借りして展示したところ好評を得た。
<山科図書館の取組>
・山科図書館は今年６０周年を迎える。なにか面白いことができないかと，山科の利用者でもある郷土歴史家の方に相談して，今年の６月～８月に子どもを対象にした「ふるさと山科の昔話」「山科の歴史っておもしろいなあ」というタイトルで講演会を行った。
・子ども対象にもかかわらず，実際ふたを開けてみると，大人も多かったということで，これがさらに発展し，「山科を知ろう６回シリーズ」が始まり，大人の方を対象とした講演会に広まっている。
・「山科区のたからもの」は，山科区の会員１００名くらいがいる大きな会がフィールドワークをして，地図を作成し山科図書館に提供された。
・「山科１００万年の営み」は，こちらも郷土歴史家の方がお調べになった１００万年の歴史を一つの年表にされたものを，山科図書館で掲示したもの。
<久我のもり図書館の取組>
・影絵「一寸法師」の作成と上演。地域に一寸法師伝説があり，それに館長が目をつけてその一寸法師の影絵を作って多くの子供たちに民話を親しんでもらえないかとい

うところからは始まったもの。かなり芸術性の高い，精度の高い作品になっており，影絵だけではなく，館長が堀川音楽高校の校長をしていたということもあり，卒業生の協力も得て音楽付きで一寸法師を上映したところ非常に好評となった。地元の小学校からも依頼があって上演している。

・「薬膳講習会と地元の野菜即売会」。久我のもり地域にある「久我・久我の杜・羽束師地域まちづくり協議会」と連携して講習会や新鮮な野菜・新米の即売会を実施した。

<岩倉図書館の取組>

・「英語多読講演会」。岩倉図書館の近くに住んでおられる外国人の方が，洋書をご覧になって，いろいろアドバイスをされた。それがきっかけになり，そこからもっと英語を楽しんでもらおう，子ども達にも広く英語というものに親しんでもらおうという思いから始まった。たくさんの単語に触れることで英語を効率的に習得することができる取組として好評を得ている。

・「英語タイム」。これは英語の絵本の読み聞かせや手遊びをしたり，歌を歌ったりそういう楽しい企画になっている。

・その他にも岩倉図書館では，図書館に来る人だけではなくてさまざまな人たちに図書館情報を広めたいという思いから手分けをして，人が集まりそうなところで，催しのチラシを置いている。その中の一つ，岩倉地区の大垣書店にチラシを置いていたところ，その書店の方から講師の方を紹介いただき本日資料をお配りした講演会「日本の盆栽」が実現した。

（３） 休館日のクールスポット開放・年末臨時開館の実施について

<休館日のクールスポット開放>

・今年の夏の厳しい電力需給状況を踏まえ，国からの節電要請があった。

・電力需要全体でピークとなる平日昼間の時間帯午後１時から４時を中心に家庭での電力使用を抑えるということを目的にし，京都市では「クールスポット」ということで冷房を効かせた公共施設等で，無料開放とか利用料金の値引き，特設イベントの実施など行い，市民の利用を促す家族でお出かけキャンペーンを実施した。

・京都市図書館においても，こうした取組の一環として，子ども達の夏休み期間，７月２１日から８月３１日に，休館日のクールスポットを実施した。

・この開放では，館内の図書の閲覧や読書スペースを開放するとともに節電に関連した図書の展示コーナーを設置した。

・貸出，予約等の通常業務は行わず，あくまで会場を提供することで，１０時～１７時まで実施した。

・合計１８館で延べ１５０時間の休館日を開放し合計で４０，３８８人の方にご利用いただいた。

・京都市全体においても市内の３１４施設でクールスポットに取組んだが，全体でも

延べ８２万４千人の方にご利用いただき，その結果京都市内の使用電力についても暑さの厳しかった平成２２年度と比べ，１４．２％の減となり，目標としていた１０％減を達成した。

・利用者の方の反応についてもおおむね良好で，図書館としても大きな役割を果たすことができたのではないかと考える。

<年末の臨時開館>

・京都市図書館では現在，年末年始の休館日は，１２月２８日から１月４日までの８日間を設定しているが，通常の休館日の火曜日や第４水曜日との兼ね合いで場合によっては中央館では最長９日間，地域図書館では最長１０日間にわたる長期の休館になるということもあり，市民の方の利便性を向上するために平成２３年度４つの中央館で，１２月２８日の年末の開館を施行実施した。

・これについては開館時間を１０時から１７時までということで実施した。その結果中央図書館においては，１２月２８日の臨時開館日に１，５８４名の来館者があり，その年の１２月の１７時までの平均来館者数と比べても４５０人あまり多い結果となった。

・他の３つの中央館についても通常の来館者を上回る来館者があり，大変盛況であった。

・今年度については，中央館以外の地域館１４館にも拡大をし，１２月２８日の年末臨時開館を実施したいと考えている。

３　報告事項に関する質疑応答

意見：　統計のところで，個人登録者数というのがあるが，図書カードは一回作ったらずっとそのまま持つので，どんどん増えていくような気がするが，下がるというのはこれはどういうカウントをされているのか。

回答：　カードを作られてから５年間まったく利用されなかった利用者についてはデータを落としている。在勤，在学の方も作れるが，学生さんは特にご卒業されることで，引っ越しされたりして利用がなくなったりすることもある。

意見：　５年間経つと無効になるわけではないのか。

回答：　使い続けていれば，それはない。５年間一度も使われていなければデータとしては無効になる。無効になってから，また使いたいときは，もう一度申請し，登録することになる。いつまでも使われない方のデータを持っているというのは不適当かと思う。

意見：　登録と入館者とは必ずしも一致はしていないということですね。

回答：　そうです。入館者数は，同じ方でも利用される毎にカウントされる。

意見：　東山図書館の「戦争展と平和関連図書の展示」は見学させていただいた。馬町の爆撃は我が家も爆撃で窓が割れたりした。私自身が昭和２０年生まれで，あのような写真が展示されていて，どうしても見たいということで，家内ともども行った。

もう一つ学校の歴史のような写真展をされていた時も行ったが，同級生が写っていた。たぶん私だけではなくて，私くらいの年代の者は行っている人間がかなりいると思う。小学校の同窓会とか女学校の同窓会とかで話題になるだろうとそういう意味では広がっていくと思う。ただ，写真展は訪ねるきっかけを作っているという意味では役目を果たしたと思うが，それだけて終わってしまってはもったいないので，そのきっかけをいかにうまく広げていくか。パンフレットが置いてあるとか，熱心に見ておられる方がいたら，「こういう本があるんですよ」と，会話がなりたっていくと良い。導入のきっかけということでは，なかなかのものだという印象を持った。

意見：　私も清水小学校出身だが，３月の写真展は行けなかったが，思い入れが深く，悔まれる。もう一度やっていただけたらと思う。小学校時代の場所，東山の図書館がない時代から知っているので，つながりの拠点となり大変嬉しい。

団体貸出についてお伺いしたい。私は，老人ホームに勤めており団体貸出制度を利用したいと考えたが，現在の図書館の基準では２０名の会員を揃えていないと受けつけてもらいにくい。これは人数の少ない施設ではハードルが高い。施設側がきちんと本の管理ができれば，２０名揃わなくても施設名と代表者名で申込ができるようになると良いと思う。

老年の方は動けず耳が聞こえなくなると本や新聞を読まれる。今まで長く人生を生きて来られた方々が，昔を懐かしんで，刺激にもなる。加えて施設の若い職員の中にはお年寄りにどう声掛けをしていったら良いかわからず，横に座っているだけの者もいる。そんな時に繋ぐ架け橋になるのは本や写真集で，ちょっと写真集をご覧になると話ができる。また，子ども向けの本も読みやすいので結構役立っている。

このように，団体貸出で借りる場合，どういう本が皆さんに良いのかこれから調査していこうと思っている。

そういう観点から行くと，図書館とは違うが，たとえば地域の小学校の図書館でも近くのデイサービスとかに門戸を開いていただければ，それこそ地域の連携になるかと思う。デイサービスをお使いになられる地域の方が学校や図書館で交流していただいて，地域の中で多年齢の方同士が友達になって楽しめるのではないか。

回答：　団体貸出はもともと文庫とかを想定して作っていた制度で，今回おっしゃていただいたようにそれぞれの各団体の方が責任をもって管理いただければ団体が継続的でなくても一つの機会に活用したいといった場合にも柔軟に対応できるようにしたい。これまでの団体貸出よりは貸出期間が短くなったり貸出冊数が少なくなることはあるかもしれないが，その分活用しやすくしていきたいと思っている。

意見：　デイサービスとかショートステイでの活用は，図書館が売り込んでいただくことで，団体貸出の登録数も増えていくのではないかと思う。

回答：　正直いままでは対応がなかなか難しいということで限定させていただいていたが，ある意味柔軟に対応していくことで少しつながりというか取組が広がっていくかなと

思っている。

４　協議事項

（１）「図書館利用者層の拡大と図書館サービスのアピール」について

＜事務局から協議事項について説明＞

・利用状況については，貸出冊数では，この１０年で４３％増となっている。これに比べ登録者数については，２６％増。貸出冊数の伸びに比して少し伸びが少ない。

・これから利用者層の増を考えていくにあたり，その母数となる登録者数をさらに効果的に伸ばしていくにはどうした手だてが有効であるのか考えていきたい。

・登録者数の状況については，京都市の人口比で２９．２％という数値になっており，文部科学省の調査では，全国平均では人口比２５．２％ということで，若干京都市の方が高く，けっして低いという数字ではないが，図書館が図書をはじめとした資料や情報を必要な方にお届けするという点で３割弱という数字がどれほどの数字なのかと考えていきたいと思う。ご利用になられない方は他の手段でそのニーズを満たしておられるのか，否か。ほかの手段を選択する場合，図書館に通う時間がとれないとか，消極的な理由でしかたなくといった図書館が利用しにくいということであれば，改善できることがあれば改善できたらと考えている。

・これからの図書館のサービスの有り方というか，図書館が単純に本を届けるだけということでもないので，予算上の話の制約もあるのは事実だが，本日はそういった面は考えていただかなくて，いろいろなご意見をいただき，図書館がこうなったら使いやすいといったご意見もいただきながらご協議いただいて，その中から実現できるアイデアをいただけたらと思っている。

・このこととも関連するが，図書館が行っている既存のサービスも市民の方々にどれだけ知っていただいての現在の利用状況なのか。たとえば，図書館の司書が行っている調べもののお手伝いをレファレンスサービスと言っているが，昔の図書館のイメージで調査・研究のためのものというイメージをお持ちの方もいらっしゃり，少しかしこまったものとしてとらえられている向きもあるかと思う。市民に身近な図書館として，本当に日常生活のちょっとした調べものや疑問点を気軽に図書館の司書にお尋ねいただけたらと思う。調べもののお手伝いをさせていただくことが，なかなか現在図書館をご利用いただいている方についても，このレファレンスサービスはご利用いただけていない。遠慮されているのか，こういうことは聞くべきことではないと思っておられるのか。ご利用いただけない方に，どれだけアピールできているのか。正直あまりできていないという思いがあり，図書館全体のサービスについて図書館からの発信力を高めていく。こういうことが必要かなと考えている。そういった機会，あるいは手段についてあわせてアイデアをいただければと思う。

意見：　アピールの面では広報誌「京図ものがたり」は一般的なものと比べると固いと思う。

もし気軽に訪れたいイメージを作りたいのであれば，もっとフランクに本質を守りながらくだけたものにしてはどうか。これは何部刷って，どこに配っておられるのか。

回答：　約一万部刷っている。学校や区役所，地下鉄の駅，大学等に配布している。従来の役所の刊行物を置いてもらっている範囲にとどまっていると思う。

意見：　私もあまり目にしないですね。商業施設や書店には置いていないのか？

回答：　書店には配布していない。先ほどの岩倉図書館などは，ご協力いただいて，図書館のチラシをおいていただいたりするが。

意見：　もし，本屋さんのご協力が得られるのであれば。本を買いに行っておられる方が，図書館はこんなことをしているのかと知っていただけると思う。

意見：　貸出と入館者が増えないというのは，せっかくの京都市の財産を活かし切れていない。予約のサービスとかあちこちデリバリーをされていて，それが人気になって，ある程度貸出数を増やす力になってくるかと思うが，それも頭打ちがくるんだなという状況かと思う。貸出数にどこまでこだわるのか，どこまでが図書館の役割として適切なのかという問題もあるかと思うが。

期限がきたら返却して新しいのを借りるというサイクルができている場合は良いが，働いている社会人にとってはどうか。借りる時は良いが，返しに行くのがなかなか面倒なので，返す方法をなんとかできないのかなと。たとえば，コンビニや郵便局などにボックスを用意しておき，まとめて回収してもれえると良い。京都市では既に駅中にポストを置かれているが，更にわかりやすいポスターを張ってもらうと良い。コンビニとか郵便局を巻き込もうとすると，なかなか手間がかかるので難しいかと思うが，そういうことに関しては有料化し，貸出，返却に関しては複数でいくらとか。コンビニ受け取りで，ネット経由で本を買ったりすることがあるが，実現するのにコストがかかると思うので，全体の設計からしっかりしていって。そういうことをやっていくと，図書だけでなく他にも利用できると思う。

地域との連携の事業でも紹介されていたが，東山の馬町の空襲の話は興味をひかれるものだが，それをそのままはい終わりましたでは，もったいない気がする。小さな冊子にして，５０円でも１００円でもいただくとか。あるいは山科の展示もイベント形式にしておくと，学校の学習に使えたり，常時でなくてもすぐ出せるような展示という形にしておけば，学校の社会学習の授業の一環で図書館にちょっと来てもらうとか，それは各図書館個別にはどうかと思うが。

意見：　小さい図書館で講演会をやったり，ミステリーツアーをやっていたりしておられるので，行ったことがない図書館にも足を運んでみようと思っている

久我のもり図書館で，写真家の方のワークショップがあったので，行ってみたいと思った。住んでいるところは西京区だから西京図書館に行くのがいいのだが，今，右京中央図書館までバスで３０分かけて行っている。そこだと駅のそばなので交通の便が良く，用事があって京都駅方面に行くときなども，効率よく済ませられるというこ

ともあり，なおさら行きたくなる。

生活圏の中から外れると，面白い蔵書があるとか，図書館ごとのすごい特徴がない限り行きにくいと思うし，生活圏の中に図書館がない人はなかなか次の貸出につなげるのが難しいと思う。

返却ポストも京都駅の方が私は便利だ。平日，夜８時半までやっているのはすごいと思うが，仕事帰りの方が利用しているようだ。私としては，土・日にせめて６時まで開館していただけるとありがたい。イベントや講演会が土・日にあると，そのついでに寄りたいが，５時だと間に合わないことがある。

それぞれの図書館の情報が別の図書館に行ったときにも見られたら良いと思う。区役所でも窓口が駅のところにありそこで住民票をもらえたりする。ああいうのがあると便利で，返すときの負担が減る。駅から離れたところだと不便だし，返却ポストを地下鉄に増やしてもらえたらと思う。

右京中央図書館の絵本コーナーは，アイウエオ順のタイトル順に並んでいるが，子どもだったらそれで良いかもしれないが，大人は好きな作家の絵本を探すのにいちいち検索して探さなくてはいけない。児童書の番号の配置がわかりにくい。

レファレンスコーナーとか大きく書いてあって，行く度にいろいろ展示に工夫があって変化があるのは，活気を感じる。

レファレンスはこういうことをしていると，絵などで解り易く説明してほしい。研究のためにあるのかと思っていた。

意見：　吉祥院図書館を利用している。バスの便があまりない図書館で，一週間にまとめて何冊か借りる。老齢化してくると返しにいくのが面倒になってくる。

地下鉄だけでなくＪＲ西大路駅とかに返すボックスがあれば出掛けるついでに返せるから便利だと思う。

意見：　右京中央図書館の入館者数が多いのはなぜか。返却ボックスを増やせないか。開館時間の問題をご説明願えないか。

回答：　右京中央図書館については，施設の規模も京都市図書館の中でも最大規模で，閲覧スペース等充実し，ゆっくり過ごしていただけるということがある。レファレンス専用のカウンター，電子メディアゾーンといってインターネットも利用でき，調べものに使っていただける，普通に使えば有料のデータベースを無料で提供している。視聴覚資料も取り扱っており，いろんなニーズにお応えできるということがある。

交通の便もよく，地下鉄太秦天神川駅に隣接しており，駐車場も区役所との兼用になっている。特に親子連れの方で西京方面からお車で来られ，４人家族でしたら４０冊ごそっと借りて帰られる。車だとこういう借り方ができる。西京，右京方面から車で来られる方や，地下鉄で下京，醍醐方面からのご利用も多いので，そういったことがいろいろ重なってご利用が多いかと思っている。

返却ポストについては，実は京都駅であったり，烏丸駅であったりと，市役所前に

設置するとき，同じようにご相談させていただいた。管理の問題で，図書があふれた時にどうしてくれるのかとか，地下鉄との協力関係の中でどれだけ管理していただけるのかという問題がある。

返却日を守らないといけないときちんと思っていただける方ほどプレッシャーになって，きっちり返せないから使いづらいと感じておられるのかと私どもも思っているので，ポストについては考えていきたい。

開館時間の問題は，人員の頭数の問題になってくる。それこそ夜間開館を今以上にというお声もあれば，朝の開館時間を早めてほしい。土・日の開館も平日と同様にとか。休館日をなくしてほしいとか。これに関してはそれぞれの生活スタイルに合わせてそれぞれのご意見があり，その中でどれをとるのかというところがある。市民の生活スタイルについてなにかの折に検証し，考えていけたらと思っている。

意見：　学校としては，図書館に色々協力してもらい，学校貸出等でたいへんサービスいただいており，学習は非常に充実して取組めていると改めてお礼申しあげる。というのは，昨年度から国語の教科書が大きく変わり，一つの教材で教えるのではなく，同じ作者とか同じことをテーマにした作品で子どもたちにより広い読む力をつけるというふうに変わってきている。そうした中で多くの図書に触れるということは学校サイドだけではなかなかできないので，学校団体貸出を各学校で地域の図書館にお願いしている。

もう一方では図書館を情報センターとして活用し，調べ学習につながるものをさせなければいけないと言われている。パソコンを使って調べ学習をどうさせるのかということも今研究の大きな視点になってきている。夏休みには百冊読書のシールを地域図書館で貼ってもらったらカウントできるということで，足を運ぶ子どもも増えてきている。

本校では「土曜読書の日」を実施し，親子に図書室を開放する取組をしている。その時に，親も借りていいんですかと言われる。他の子どもが借りられなくなるので遠慮してもらっているが，地域の図書館なら親子で読書ができ，一緒に借りて帰れるということをもっとアピールすれば良いと思う。

もう一つは，子ども達は図書館に本を借りに行くだけではなく，展示を楽しみにしているというのが大きいかと思う。教科書で学習しているところを子どもは発展的に知りたいと思うので，展示の工夫で，親も子も足を運べるようなコーナーにされたらと思う。また，卒業前の子どもにぜひ読んでほしい一冊というようなベストテンをやってはどうか。子どもがそれをみてすぐになにか感じ取れるような展示の工夫も良いかなと思っている。

意見：　子どもが中学生だが，一番読まない年代。放課後まなび教室とか，地域の図書館を活用することによって，常に授業が済んでからでも，本を手に取れる環境があり，図書があるというのはすごい大事なことで，それをきっかけに自分がサッカーをやって

いるとか，映画を見たりすることも，本につながっていく。

意見：　返却ポストの話だが，ＰＴＡの繋がりで言えば小学校に設置されれば良いと思う。既に学校には文書メールの運搬制度があるので，それを活用してはどうか。

　駅拠点のポストは勤め人とか利用年齢層が限られるが，学校なら幅広い年齢層の方が利用でき，しかもお金もかけずにすむ。図書館と教育委員会との繋がりを考えても上手くいくのではないかと思うし，小学校や中学校の図書館を見ていただいたりする形もできてくるのではないかと思う。